

名古屋市立大学データサイエンス学部カリキュラムマップ ～養成する人材像と3つのポリシーと教育課程の関係性～

■養成する人材像

IT、ビジネス、医療など社会における情報技術及びデータ活用に関する様々な事象や課題に興味と関心を持ち、統計学、数学及び情報工学の体系的な知識と技術、さらには経済学の基礎知識を応用して社会に存在する膨大なデータの収集、管理、分析することで、事象を客観的に実証分析し、社会課題の解決策の立案に実践的に取り組める能力を習得した人材を養成する。

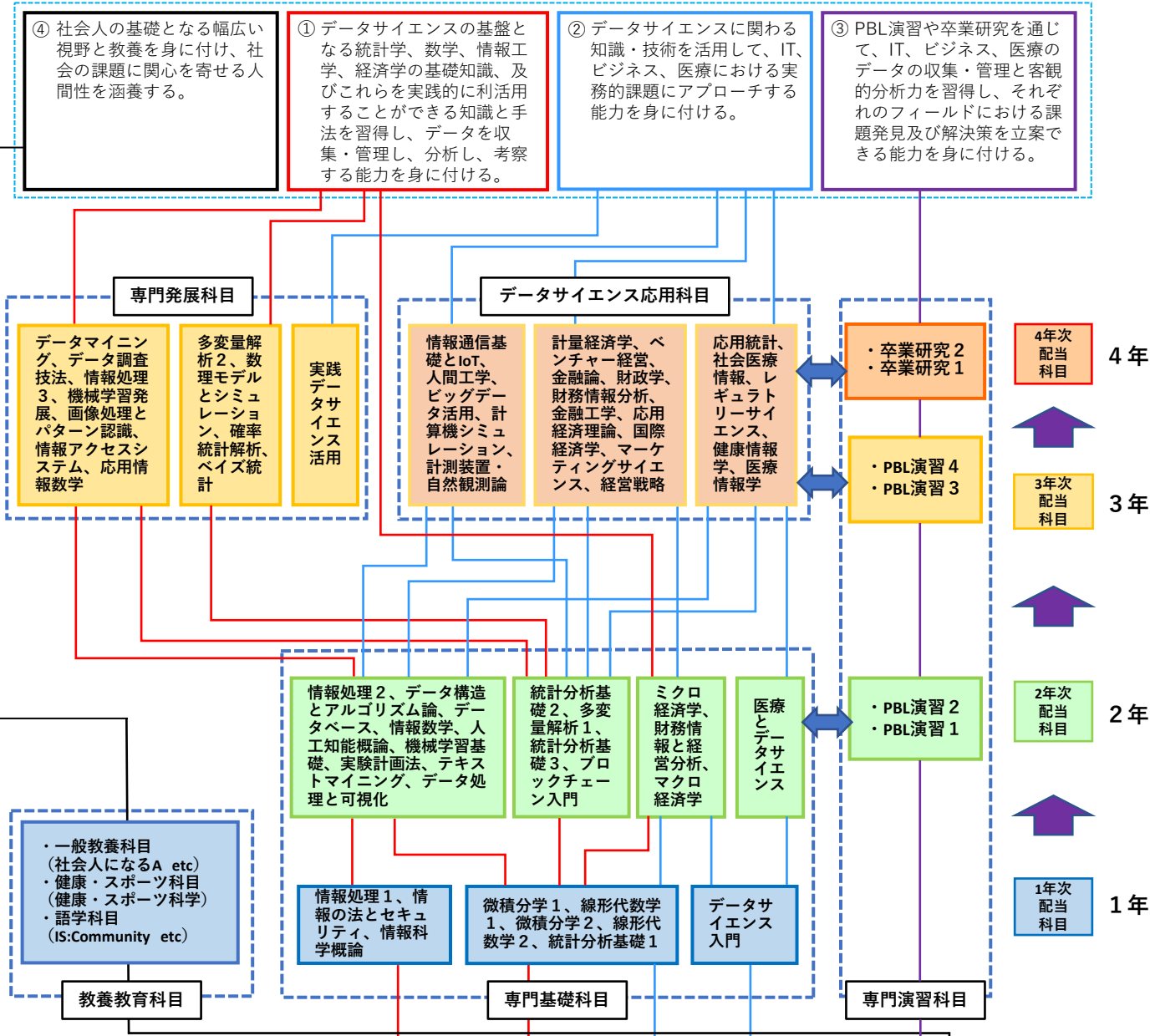
■4つのディプロマ・ポリシー

④ 社会人の基礎となる幅広い視野と教養を身に付け、社会の課題に関心を寄せる人間性を涵養する。

① データサイエンスの基盤となる統計学、数学、情報工学、経済学の基礎知識、及びこれらを実践的に利活用することができる知識と手法を習得し、データを収集・管理し、分析し、考察する能力を身に付ける。

② データサイエンスに関わる知識・技術を活用して、IT、ビジネス、医療における実務的課題にアプローチする能力を身に付ける。

③ PBL演習や卒業研究を通じて、IT、ビジネス、医療のデータの収集・管理と客観的分析力を習得し、それぞれのフィールドにおける課題発見及び解決策を立案できる能力を身に付ける。



■5つのカリキュラム・ポリシー

① データサイエンスの基盤となる、統計学、数学、情報工学、経済学に関わる基本的な知識や手法から発展的な事柄までを段階的に配置する。

② IT、ビジネス、医療における実務的課題にアプローチする能力を身に付けさせるため、それぞれの分野へのデータ活用に関わる講義を配置する。

③ 講義等で養った知識や手法を実践的に利活用できるようになるために実務的課題を解決する訓練を段階的に体験させ、問題発見力や課題解決力を向上させるPBL演習や卒業研究を配置する。

④ 豊かな教養及び人間性、異文化、自然、健康への理解を育むことに繋がる内容を習得させる。

⑤ 講義や演習においては、授業への参加態度、課題提出、試験などを通じて、講義や演習内容の学修成果を総合的に評価する。

■4つのアドミッション・ポリシー

① 統計学や数学、情報工学を活用してデータから新しい知見を見出すことに関心があり、好奇心を持って自ら学ぶとする意志のある人。

② 社会における様々な現象や事象に興味・関心を持ち、そこに現れる疑問や課題の解決に向けたデータの活用に関する理論や技術、実践事例を学びたいと考える人。

③ 統計学や数学、情報工学を学ぶために必要となる数理分野の基礎学力を修得している人。

④ データサイエンスの専門科目やPBLの履修において、実務情報や学術的入門書からの情報収集に対応できる基礎的な英語力を修得している人。